

## 工芸品（異種材利用）の試作研究（Ⅲ）

上原守峰

昨年度に引続き木と木の組み合わせによるテーブルウェア（ペンケース、ペンスタンド、メモホルダー）の試作をした。明度差の大小、空の有無による組み合わせの方が、そうでないものより効果があった。

## 1. はじめに

本県には様々な工芸品があるが、各業種間の技術交流は稀で製品開発事例も少ない。異種材の組み合わせによる製品開発は従来にない新しい効果を生み出し、素材の加工性や質感に対する理解を深める。

又、伝統産業を育ててきた風土、技術、材料は時代とともに変わりそれに伴い我々の生活形態も変化してきている。新しい生活には、質を高めたものや新しい工芸品が必要とされることも含めると異種材による製品開発は重要であろう。

そこで58年度から小物を主体に、木材相互間の組み合わせや木とその他の素材との組み合わせを試みているが、本年度は、テーブルウェアを中心に8種8点を試作した。

## 2. 概要

## (1) デザインコンセプト

- ・常に安定供給できる材料を用いる
- ・同型でも寸法や材色の変化をもつ構成にし、ユーザーの多様化要求に対応する
- ・量産に適した単純な構成にし、必要があればハンドメイド的要素の装飾を用いる
- ・色や空の変化の多い広葉樹を主体に利用する

## (2) 過去の試作品

- ・ペンケース 1点  
ヤクスギ+タブ
- ・箱物 2種2点  
ヤクスギ+タブ
- ・ペーパーナイフ 3種9点  
イスノキフェノール樹脂含浸材+クス高圧蒸気処理材  
" +ヤマグルマ  
" +ヤクスギ
- ・ペーパーウェイト 4種5点  
ヤマグルマ+タブ  
クス高圧蒸気処理材+タブ  
ヤクトガ+タブ

## ・ペーパーウェイト 14種45点

イスノキ+カヤ

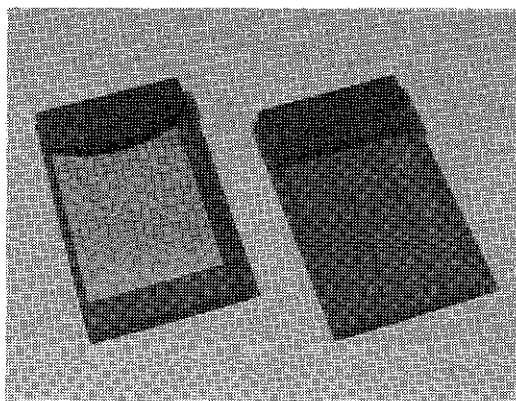
イスノキ+錫

カヤ+錫

タブ+錫

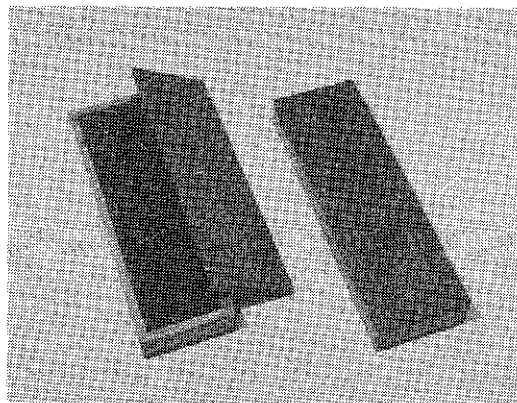
カシ+錫

## (3) 本年度の試作品



## ・メモホルダー (35×130×200mm)

イスノキ+ケヤキ



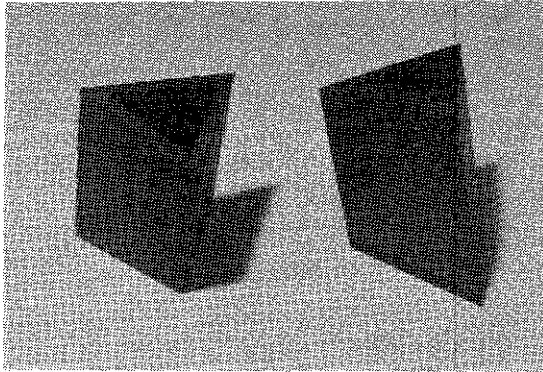
## ・ペンケース (35×75×245mm)

カシ+チーク、ブビンガ+チーク

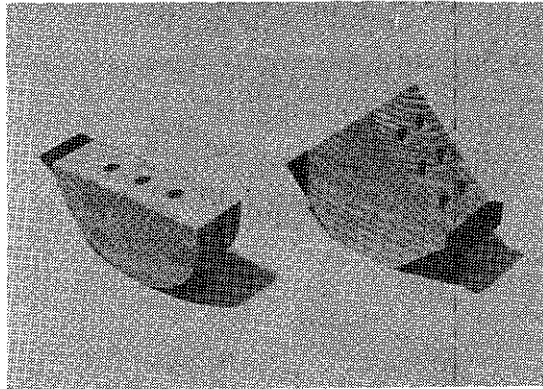
## 3. まとめ

本年度で32種80点の主に木と木の組み合わせによる試作品が完成した。

明度差の大小（イスノキとマツ、イスノキとヤマグルマ、イスノキとカヤ）、空の有無（イスノキとカシ、チークとカシ、ヤクスギとタブ）による組み合わせの方がそうでないものと比較すると効果があった。錫などの他素材との組み合わせにおいては、質感の調和を図ることが大切である。



• ペンスタンド（90×90×120mm）  
カシ+イスノキ、チーク+セン



• ペンスタンド（40×90×110）  
マツ+イスノキ